



TITLE:

表紙・投稿規定・プレプリント案内・編集後記・裏表紙ほか

AUTHOR(S):

---

CITATION:

表紙・投稿規定・プレプリント案内・編集後記・裏表紙ほか. 物性研究 1990, 54(3): 237-241

ISSUE DATE:

1990-06-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/94086>

RIGHT:

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可  
平成2年6月20日発行(毎月1回20日発行)  
物性研究 第54巻 第3号

ISSN 0525-2997

**vol.54 no.3**

# 物性研究

**1990/6**

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、プレプリント案内、ニュースなどです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査を行ないません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で **private communication** 扱いにして下さい。

### 投稿規定

1. 原稿は400字詰原稿用紙を使用し、雑誌のページ数を節約するために極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
3. 数式、記号の書き方は **Progress, Journal** の投稿規定に準じ、立体“ $\square$ ”、イタリック“ $\textit{—}$ ”、ゴシック“ $\text{—}$ ”、ギリシャ文字“ $\gamma$ ”、花文字、大文字、小文字等を赤で指定して下さい。又特に区別しにくい $o$ と $a$ と $0$ (ゼロ)、 $u$ と $n$ と $r$ 、 $c$ と $e$ 、 $l$ (エル)と $1$ (イチ)、 $x$ と $\times$ (カケル)、 $u$ と $v$ 、 $\dagger$ (ダガー)と $+$ (プラス)、 $\psi$ と $\phi$ と $\varpi$ と $\emptyset$ 等も赤で指定して下さい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図はそのまま印刷できるもの（原則としてトレースされたもの）とそのコピーを本文と別に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。図の縮尺、拡大は致しません。図の説明を含め1頁（13×19cm）以内に入らないもの、そのまま印刷できない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。図中の文字は活字にいたしません。図の説明は別紙に書き、原稿に添えて下さい。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけ避けるようにして下さい。
8. 別刷御希望の方は投稿の際に50部以上10部単位でお申込み下さい。別刷代は別刷代金表（当会にご請求下さい）に従い、別刷を受取ってから1ヶ月以内に納めて下さい。（郵便切手による受付はいたしません。）
9. 原稿締切日は毎月5日で、原則として次月発行誌に掲載されます。

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、プレプリント案内、ニュースなどです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査を行ないません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で **private communication** 扱いにして下さい。

### 投稿規定

1. 原稿は400字詰原稿用紙を使用し、雑誌のページ数を節約するために極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
3. 数式、記号の書き方は **Progress, Journal** の投稿規定に準じ、立体“ $\square$ ”、イタリック“ $\textit{—}$ ”、ゴシック“ $\text{—}$ ”、ギリシャ文字“ $\gamma$ ”、花文字、大文字、小文字等を赤で指定して下さい。又特に区別しにくい $o$ と $a$ と $0$ (ゼロ)、 $u$ と $n$ と $r$ 、 $c$ と $e$ 、 $l$ (エル)と $1$ (イチ)、 $x$ と $\times$ (カケル)、 $u$ と $v$ 、 $\dagger$ (ダガー)と $+$ (プラス)、 $\psi$ と $\phi$ と $\varpi$ と $\emptyset$ 等も赤で指定して下さい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図はそのまま印刷できるもの（原則としてトレースされたもの）とそのコピーを本文と別に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。図の縮尺、拡大は致しません。図の説明を含め1頁（13×19cm）以内に入らないもの、そのまま印刷できない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。図中の文字は活字にいたしません。図の説明は別紙に書き、原稿に添えて下さい。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけ避けるようにして下さい。
8. 別刷御希望の方は投稿の際に50部以上10部単位でお申込み下さい。別刷代は別刷代金表（当会にご請求下さい）に従い、別刷を受取ってから1ヶ月以内に納めて下さい。（郵便切手による受付はいたしません。）
9. 原稿締切日は毎月5日で、原則として次月発行誌に掲載されます。

## プレプリント案内

[京都大学基礎物理学研究所]

- 6-1 G. Ódor  
Investigation of the defected potts model by the  
density of states method
- 6-2 Franco Nori, Elihu Abrahams and Gergely T.  
Zimanyi  
Generalized flux states of the t-J model
- 6-3 E. Del Giudice, S. Doglia and M. Milani  
Coherence of electromagnetic radiation in biolo-  
gical systems
- 6-4 Robert V. Duncan and Guenter Ahlers  
Singularity and nonlinearity in the Kapitza  
resistance between gold and superfluid  $^4\text{He}$  near  $T_\lambda$
- 6-5 Lori S. Goldner, Guenter Ahlers and Ravi Mehrotra  
Quantitative studies of nonlinear second sound in  
superfluid  $^4\text{He}$
- 6-6 L. Ioffe, A. I. Larkin, Yu.N. Ovchinnikov and  
L. Yu  
Superconductivity in mixed boson-fermion systems
- 6-7 Wei-Mou Zheng  
Applied symbolic dynamics for the Lorenz-like map
- 6-8 Wei-Mou Zheng  
Symbolic dynamics for the Lozi map
- 6-9 Wei-Mou Zheng  
Power series solutions for vesicles
- 6-10 Wei-Mou Zheng  
Symbolic dynamics for the circle map
- 6-11 M. W. C. Dharma-wardana and François Perrot  
A density functional study of C, Si and Ge Metall-  
ic liquids

- 6-12 Adriana Moreo, Elbio Dagotto, Thierry Jolicoeur  
and Jose Riera  
Incommensurate correlations in the t-J and frust-  
rated spin- $\frac{1}{2}$  heisenberg models
- 6-13 B. Trninic-Radja and M. Sunjic  
Inverse photoemission from electronic surface  
states : intensity, angular and polarization  
dependence
- 6-14 L. N. Shehata  
Specific heat and critical fluctuations in anisot-  
ropic high-T<sub>c</sub> oxide superconductors
- 6-15 L. Knöll, W. Vogel and D.-G. Welsch  
Rigorous QED-proof of the Langevin equations for  
high-Q cavity fields
- 6-16 F. C. Matacotta, L. Morales de La Garza,  
M. Nevriya, G. Nardin, L. Randaccio and  
E. Zangrando  
Growth and properties of  $M_{2-x}Ce_xCuO_{4+d}$  single  
crystals
- 6-17 S. A. Siddiqi, K. Sreedhar, D. Drobac, C. Infante,  
F. C. Matacotta and P. Ganguly  
On the substitution of SR ions at Y sites in  $YBa_2$   
 $Cu_3O_{7-d}$
- 6-18 K. A. Rustamov  
On the transformations of invariance and the exact  
solutions of the Rabi model
- 6-19 Marco Roncadelli  
New formulation of quantum mechanics
- 6-20 A. R. Hassan  
Three-photon interband process in solids
- 6-21 M. C. Donnamaria, A. N. Proto and A. M. Meson  
Information entropy and Thomas-Fermi screening  
functions

- 6-22 Prabhat K. Thakur and N. Kumar  
Resistance due to a pseudorandom potential with  
slowly varying period
- 6-23 R. Cardenas  
Hydrogen chemisorption on a tight-binding solid :  
influence of partial occupation of the impurity  
level on the electron characteristics
- 6-24 Hilda A. Cerdeira and R. Ramaswamy  
Dissipative quantum maps
- 6-25 H. B. Pang, Z. B. Su, L. Yu and T. Xiang  
How to interpret the validity of the single band  
model?
- 6-26 Norio Kawakami and Sung-Kil Yang  
Luttinger anomaly exponent of momentum distri-  
bution in the Hubbard Chain

# 掲 示 板

1990.6

## アンケート「基礎物理学研究所の将来計画」へのご協力ありがとうございました

この6月8日に広島大学理論物理学研究所と京都大学基礎物理学研究所の合併も無事成立致しました。この間、全国の研究者の皆様には、新研究所の将来計画について種々の角度からの検討をお願いするアンケートをお送りし、大変多数の方々から回答を頂きました。どうもありがとうございました。ここにお礼かたがた集約の状況を報告致します。

1990年4月20日に、全国各研究室並びに基研関連の各種委員の方々に(表1)アンケートを発送しました。

素粒子・原子核関係研究室	192 通
物性関係研究室	140 通
研究部員・運営委員	47 通
協議員	4 通
広大理論研所員	7 通
将来計画委員	13 通
合 計	403 通

回答者の内訳を分野別(表2)、地域別(表3)に示します。

表2 分野別回答者数

分野	個人	研究室	合計
素粒子	22	13	35
原子核	18	7	25
物性	7	0	7
天体	2	0	2
素・核	0	3	3
不明	14	0	14
合計	63	23	86

表3 地域別回答者数

地 域	個人	研究室	合計
北海道	2	2	4
東北	5	0	5
関東	13	4	17
北陸	2	2	4
中部	6	4	10
近畿	16	4	20
中、四国	7	1	8
九州	1	6	7
不明	11	0	11
合計	63	23	86

このアンケートは全国の研究者の方々の御意見を聞くことを主旨としましたので、定量的分析は出来ませんが、将来計画委員会では出された意見の大まかな分類を行い、その頻度を研究室と個人に分けて回答要約にまとめました。追って、しかるべき方法で回答要約やアンケートの回答内容を公表する予定です。それらの御意見は、今後の将来計画立案の段階で盛り込んでいきたいと考えております。今後共よろしくお願い致します。また、11月21、22日には合併祝賀会を兼ねて基研の将来計画に関するシンポジウムを開催する予定です。多くの方々の参加を期待致します。

京都大学基礎物理学研究所  
将来計画委員会 委員長  
滝川 昇



## 編集後記

最近、テレビのコマーシャルを見ていると、「1/f 扇風機」だの「ファジィ洗濯機」だのと、物理屋が寝ころびながら安心して見てはおれないようなトレンドイな代物が目につくようになってきた。そのうち「カオス石けん」だの「フラクタルキャンディ」も発売されよう。もつとも、少し古いところで「電子レンジ」や「電子蚊とり器」など何が「電子」かよくわからぬものもあるから、正確に「1/f」や「ファジィ」が使われているのかどうか、なんて詮索する必要はないのかもしれない。それでも気になる人の存在を意識したか、先日私の研究室に買ってきた生協の「電子蚊とり器」には、わざわざ「電子（電気）蚊とり器」と書いてある。「蚊を感電させて落とすわけでもなし．．．」と思いかけたが、まあ一応広く普及してしまっている「電気なんとか器」の範囲ではある、と納得することにした。

物理に「ファジィ」を持ち込んだ人はすでに世界中では何人もあるようだが、日本では同僚のK教授もその一人であろう。彼の場合、（国際会議に申し込んだタイトルが、いつの間にか「F u z z y」からなんと「F u s s y」にすり替えられていた、というおまけが付くのであるが）話を聞いたとき疑問に思っって質問したら、「現在の正確な『ファジィ集合』の意味で使ってはいない」との答であった。「ファジィ集合」そのものはf u z z yではなく、集合として明確な定義のもとに使われており、決して「あいまいなものの集まり」ではない。なるほど、「ファジィ」と聞いてファジィ理論に直結してしまった自分が早とちりであったわけだ。しかしこうなってくると、このような一般的な形容詞（ほんとは正直言ってファジィ理論が言われ出すまで'f u z z y'の意味は知らなかったのだが）を使うときには、よほど用心しなければならないことになる。（H. T.）

---

物 性 研 究    第 54 卷第 3 号    ( 平成 2 年 6 月号 )    1990 年 6 月 20 日 発行

発行人	小 貫      明	〒 606	京都市左京区北白川追分町 京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所	〒 606	京都市百万辺交叉点上ル東側 TEL (075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒 606	京都市左京区北白川追分町 京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内
年額	15,600 円		

---

## 編集後記

最近、テレビのコマーシャルを見ていると、「1/f 扇風機」だの「ファジィ洗濯機」だのと、物理屋が寝ころびながら安心して見てはおれないようなトレンドイな代物が目につくようになってきた。そのうち「カオス石けん」だの「フラクタルキャンディ」も発売されよう。もつとも、少し古いところで「電子レンジ」や「電子蚊とり器」など何が「電子」かよくわからぬものもあるから、正確に「1/f」や「ファジィ」が使われているのかどうか、なんて詮索する必要はないのかもしれない。それでも気になる人の存在を意識したか、先日私の研究室に買ってきた生協の「電子蚊とり器」には、わざわざ「電子（電気）蚊とり器」と書いてある。「蚊を感電させて落とすわけでもなし．．．」と思いかけたが、まあ一応広く普及してしまっている「電気なんとか器」の範囲ではある、と納得することにした。

物理に「ファジィ」を持ち込んだ人はすでに世界中では何人もあるようだが、日本では同僚のK教授もその一人であろう。彼の場合、（国際会議に申し込んだタイトルが、いつの間にか「F u z z y」からなんと「F u s s y」にすり替えられていた、というおまけが付くのであるが）話を聞いたとき疑問に思っって質問したら、「現在の正確な『ファジィ集合』の意味で使ってはいない」との答であった。「ファジィ集合」そのものはf u z z yではなく、集合として明確な定義のもとに使われており、決して「あいまいなものの集まり」ではない。なるほど、「ファジィ」と聞いてファジィ理論に直結してしまった自分が早とちりであったわけだ。しかしこうなってくると、このような一般的な形容詞（ほんとは正直言ってファジィ理論が言われ出すまで'f u z z y'の意味は知らなかったのだが）を使うときには、よほど用心しなければならないことになる。（H. T.）

---

物 性 研 究    第 54 卷第 3 号    ( 平成 2 年 6 月号 )    1990 年 6 月 20 日 発行

発行人	小 貫      明	〒 606	京都市左京区北白川追分町 京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所	〒 606	京都市百万辺交叉点上ル東側 TEL (075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒 606	京都市左京区北白川追分町 京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内
年額	15,600 円		

---

## 会員規定

### 個人会員

1. 会費：当会の会費は前納制をとっています。したがって、3月末までになるべく1年間分会費を御支払い下さい。  
なお新規入会お申込みの場合は下記の会費以外に入会金として、100円お支払い下さい。

#### 1年間の会費

1st volume (4月号～9月号)	4,200円
2nd volume (10月号～3月号)	4,200円
	計 8,400円

(1年分まとめてお支払いが困難の向きは1 volume 分ずつでも結構です)

2. 支払いの際の注意：なるべく振替用紙を御利用の上御納入下さい。  
(振替貯金口座 京都1-5312) (現金書留は御遠慮下さい)  
なお通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。  
雑誌購読者以外の代理人が購読料を送金される場合、必ず会員本人の名前を明記して下さい。
3. 送本中止の場合：次の volume より送本中止を希望される場合、かならず「退会届」を送付して下さい。
4. 会費の支払遅滞の場合：当会の原則としては、正当な理由なく2 Vols. 以上の会費を滞納された場合には、送本を停止することになっていきますので御留意下さい。
5. 一括送本を受ける場合：個人宛送本中に大学等で一括配布を受けるようになった場合は、必ず「個人宛送本中止、一括配布希望」の通知をして下さい。逆の場合も同様です。
6. 送本先変更の場合：住所、勤務先の変更等により送本先が変わった場合は、必ず送本先変更届を提出して下さい。

### 学校、研究所等機関会員

1. 会費：学校・研究所等での入会及び個人であっても公費払いのときは機関会員とみなし、代金は、1冊 1,300円、1 Vol. 7,800円、年間15,600円です。この場合、入会金は不用です。学校、研究所の会費の支払いは後払いでも結構です。入会申込みをされる時、支払いに請求、見積、納品書が各何通必要かをお知らせ下さい。  
なお、当会の請求書類では支払いができない様でしたら、貴校、貴研究機関の請求書類を送付して下さい。
2. 送本中止の場合：発行途上にある volume の途中送本中止は認められません。退会される場合には、1ヶ月前ぐらいに中止時期を明記して「退会届」を送付して下さい。

雑誌未着の場合：発行日より6ヶ月以内に当会までご連絡下さい。

物性研究刊行会

〒606 京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内  
☎ (075) 753-7051 722-3540

物 性 研 究 54—3 (6月号) 目 次

○講義ノート

「ブラウン運動と化学反応」.....森田 昭雄..... 147

○修士論文(1989年度)

低次元フェルミ粒子系の性質.....藤本 聡..... 207

○プレプリント案内..... 237

○掲 示 板..... 240

○編集後記..... 241

物 性 研 究 54—3 (6月号) 目 次

○講義ノート

「ブラウン運動と化学反応」.....森田 昭雄..... 147

○修士論文(1989年度)

低次元フェルミ粒子系の性質.....藤本 聡..... 207

○プレプリント案内..... 237

○掲 示 板..... 240

○編集後記..... 241